

## 第8回 船橋市総合計画審議会 議事要旨

日時 平成23年3月29日(火) 16時00分～17時00分

場所 船橋市役所10階 中会議室

出席委員 中村正董副会長、金沢和子委員、川井洋基委員、斎藤忠委員、有馬和子委員、  
斎藤哲瑯委員、石井庄太郎委員、内海優委員、河村保輔委員、椎名博信委員、  
深沢規夫委員、村田佐江子委員、本木次夫委員、森田基委員、山下瑠璃子委員  
(以上15名)

※欠席 武藤博己会長、北澤哲弥委員、村木美貴委員、伊藤壽紀委員、まきけいこ委員  
(5名)

市側出席者 金子企画部長、事務局(山崎企画調整課長、野沢課長補佐、三澤、石原、三  
輪、市川、矢野、松丸)

傍聴者 1名

議事内容

1. 船橋市総合計画審議会 答申の提出
2. 答申内容説明
3. 市長謝辞
4. 懇談
5. 閉会

1. 船橋市総合計画審議会 答申の提出

—中村正董副会長より市長へ答申を提出

2. 答申内容説明

(中村副会長)

- ・審議会では、平成22年11月8日の諮問を受け、素案について全体会及び小委員会で延べ10回にわたり活発な審議を重ねてきた。
- ・社会の潮流や船橋市の特性、市民ニーズ、船橋市のまちづくりの基本理念である「生き生きとしたふれあいの都市・ふなばし」や市民の生活実態との整合性、表現のわかりやすさなどに留意して審議した結果、素案の各章における個々の施策は、これらの視点に概ね即しているものと評価したうえで、修正を要望する事項を答申にまとめた。この答申の内容を反映した計画案にしていきたい。
- ・例えば、リーディングプランの考え方や5つのプランが導き出された経緯などの説明の強化、超高齢社会を迎える中、これまで以上に生活者の視点に立った都市基盤の整備、生物多様性や里山に関する取り組みなど自然への広がりをもった環境対策、家庭教育・学校教育・社会教育を総合的にとらえた生涯学習社会への取り組み、活力を維持するための経済戦略や若者の雇用対策や職業教育などについて指摘しているので留意して頂き

たい。また、地域の課題を関係者により地域で解決できる仕組みや、船橋らしさの創出、母子保健から雇用までの一貫した子ども・若者対策など、今後9年間で総合的な対策が必要と思われる課題についても議論があったので併せて留意して頂きたい。

- ・さらに、市民に親しまれる計画とするために、公募等の方法で「愛称」をつけることについても、提案している。
- ・また、計画を進めていくため、進捗状況と成果を適切に評価して、必要に応じた改善を行うとともに、市民に分かりやすく伝えていくことが重要である。
- ・なお、後半の資料に各委員の意見をまとめている。この意見も今後の基本計画や実施計画の策定過程において、参考にして頂きたい。
- ・さらに、答申に関する審議後の3月11日に、東日本大震災（東北地方太平洋沖地震）が発生し、船橋市においても、帰宅困難者の問題や地震や津波の被害、原子力発電所の事故に伴う放射能の心配や計画停電など、市民の生活にも大きな影響が出ている。この答申には記載していないが、こうした経験を踏まえて、防災関連の施策を中心に必要な修正・加筆等を行っていただきたい。

### 3. 市長謝辞

(市長)

- ・審議会委員の皆様方、公私ともに大変お忙しい中ご出席をいただき、お礼を申し上げます。また、毎回長時間にわたる熱心な協議を行っていただき重ねてお礼を申し上げますとともに、この上ない答申を頂き感謝したい。
- ・この提言を真摯に受け止めて、計画案を作成するとともに、将来に向けた市政運営に鋭意取り組んで参りたい。
- ・先の震災の時は市の職員全般が対策にあたる体制を直ぐに整えた。帰宅困難者への対応もはじめての経験だった。
- ・今後とも、安全・安心なまちづくりに取り組んでいきたいと考えている。皆様にも是非ご助言を頂きたい。
- ・皆さんから頂いた答申を真摯に受け止めて基本計画を取りまとめていきたい。今後ともよろしく願いたい。

—集合写真撮影

—市長退出

### 4. 懇談

(企画部長)

- ・委員の皆様におかれましては、これまで熱心なご議論を頂き、お礼申し上げます。市長の挨拶にもあった通り、頂いた答申をもとに基本計画を取りまとめて参りたい。今後ともご助言等よろしく願いたい。

(中村副会長)

- ・それでは、最後ですので全員からご意見やご感想を頂戴したい。

(山下委員)

- ・今回は大変勉強になった。この会に参加したことで政治への関心が以前より高くなった。
- ・これから、若い人の応援をしながら自分もがんばっていききたい。

(森田委員)

- ・地震がもう少し前にあったら、議論の内容も少し変わったかもしれない。これから日本も船橋も考え方が相当変わってくるのではないか。
- ・これからの10年、市の皆様にはしっかり取り組んでいただきたい。

(本木委員)

- ・社交辞令でなく、あれだけたくさんの意見をよくまとめていただいたと思っている。
- ・これを市民の皆さんに浸透させていくことが大切であると思う。

(村田委員)

- ・大変勉強になった。
- ・こんな大きな災害が発生するとは思わなかった。もっと、日々緊張して生きていかなければと感じた。また人に依存するのではなく、自分がしっかりしなければならないと感じた。

(深沢委員)

- ・今回の災害については、こういう時こそ、我々はしっかり役割を果たさなければならぬと感じている。
- ・我々医師団は新公益法人としてやっていく予定である。また、市は「(仮称)保健福祉センター」を整備する予定となっているが、我々もそこで活動していくことになる。皆様のご指導とご鞭撻をお願いしたい。

(椎名委員)

- ・10回にわたって協議した内容を取りまとめていただいたこの内容を、行政と市民、経済界、各団体が協働して実現していくことが大切である。行政任せにしないで我々も是非頑張りたい。
- ・震災については、これまでバリアフリーに取り組んできたが、今回の件で街はバリアだらけになった。
- ・今は自粛一色になっているが、これを続けると経済が大きく落ち込んでしまい、復興もままならなくなるので、被害が少なかった人には是非今まで通りの生活をしていただい

て世の中に潤沢に資金がまわるようにしていただきたい。

(河村委員)

- ・私は死ぬまで船橋に住むつもりなので、この計画によって10年後の船橋がよりよいものになっていて欲しい。
- ・自分自身も色々なことを学ばなければならないと感じた。

(内海委員)

- ・大変勉強になった。
- ・今回の震災で、船橋漁港も津波により1mほど建物に浸水した。ただの水ではなく泥水なので、水が引いたあとも悪臭に悩まされた。
- ・船橋市は、旧市街には高齢者も多いので、防災に関してソフト面での連携が大変重要である。

(石井委員)

- ・社会福祉協議会で活動していて、この大災害によって市民の精神構造が変わってきていると感じている。
- ・ボランティアの活性化を、この計画にもとづいて進めていかなければと感じている。

(斎藤哲瑯委員)

- ・最近の学生達は、地域社会を知らずに育っているので、社会に出ても地域社会になかなか出ていけない。一方、今回の災害に際して、東北の人々の助け合う姿を見るにつけ、これが日本の持っている知恵ではないかを感じる。
- ・私は今マンションに住んでいて、近隣に住んでいる人のことをほとんど知らない。経済だけでなく、絆や人を思う気持ちの大切さを痛感している。

(有馬委員)

- ・地元の皆さんのご意見、異なる専門性を持つ専門家の方のご意見など、大変勉強になった。
- ・今回の震災に関しては、私は臨床心理士という立場で、新潟中越沖地震、阪神淡路大震災など、被災時の心の健康について、日本臨床心理士会、千葉県臨床心理士会において全国で心のケアに取り組んできた。最初は注目されるのだが、心の問題を回復するには5年10年と長い期間がかかる。
- ・今回の計画も、10年後というのはなかなか想像がつかない。その場その場で状況を良く判断して十分な施策をたくさん作っていただいて、市民とともにそれを実現していくということをおおいに期待したい。

(斎藤忠委員)

- ・船橋の10年後のあり方を示す審議会に参加させて頂いたことに感謝したい。
- ・大きな宿題をいただいたという思いで一杯である。この計画が市民にどのように浸透するかしっかりチェックしながら活動していきたい。

(川井委員)

- ・毎回長時間議論し、小委員会まで設置するなど、これまで参加したいろいろな会議の中でも記憶に残る会議であった。
- ・幸い船橋市では大きな被害は無かったが、先日被災地を視察して地盤沈下や液状化、道路の土砂などの被害を目の当たりにした。
- ・私はこれまで議会において防災公園の整備について訴えてきたが、市はあまり関心を示していなかったように思う。他市では整備しているので、これを期に船橋市でも防災公園を整備して欲しい。

(金沢委員)

- ・今回の震災で、前期計画で市がどのような防災計画を進めてきたのかが試されているのではないかと考えている。
- ・今回一番感じているのは、行政情報が市民に届きにくいということである。例えば罹災証明を取ると減税措置が受けられるが、それを知らない方が沢山いる。
- ・また船橋市の消防署では、要請に応じて市民の住宅の屋根瓦が落ちないようにブルーシートを張るという対応を行っているが、これも市民には知られていない。このように前期計画では備蓄や備えはしたが、これをスムーズに市民に届けるということがまだ不十分である。さらに船橋市全体の被災状況を、市はまだ把握していないと思う。
- ・今回の後期計画にはこうしたことを盛り込めなかったが、前期計画の問題点がこうして出ているので、パブリックコメントや説明会で市民の皆さんにどんどんご意見を出していただきたい。またそのため、市民が参加しやすいように土日に説明会を開催してほしい。

(企画部長)

- ・いろいろなご意見を頂き大変感謝している。
- ・今の組織で対応できない問題も多いため、今後後期基本計画を実行するために市の組織をどのようにしていけば良いのか検討したい。こうしたことも含めて、パブリックコメントや説明会などで市民の方々にご理解をいただけるような環境を作り、市民の皆さんにも基本計画を浸透させていきたい。
- ・今後、後期基本計画を推進していく中においても、また様々なご意見をいただきたくよろしくお願ひしたい。

(以上)